

(10)九州



九州地域では、景気は持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (は上方に変更、 は下方に変更)。

前回調査からの主要変更点

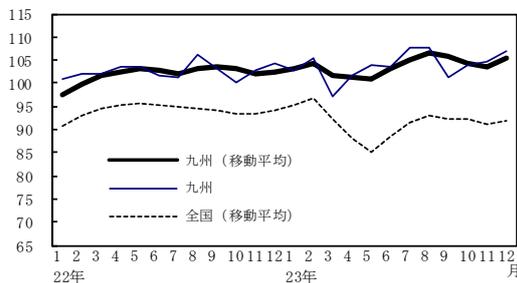
	前回 (平成 23 年 11 月)	今回 (平成 24 年 2 月)	
景況判断	足踏み状態	持ち直しの動き	
鉱工業生産	おおむね横ばい	持ち直しの動き	
住宅建設	増加	大幅に増加	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。

電子部品・デバイス、海外経済の低迷に伴う需要の低下やタイの洪水の影響から、モス型計数回路を中心に減少した。輸送機械は、震災からの挽回生産や新車の生産が好調なため増加した。食料品・たばこは、冷凍調理食品やその他の調味料などを中心に増加した。一般機械は、堅調なアジア向け需要を背景に水管ボイラー等で生産の拡大が続いているため増加した。化学は、市況の悪化からアジア向け樹脂素材の減産が続いているため減少した。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
電子部品・デバイス	15.6	▲ 3.2	▲15.8	▲13.8	3.2
輸送機械	15.4	35.0	7.3	7.8	▲ 7.3
食料品・たばこ	10.6	▲ 6.4	5.8	5.2	1.8
一般機械	10.6	▲10.4	2.6	3.8	13.7
化学	8.2	▲ 5.0	▲ 2.8	▲ 1.5	1.3
鉱工業	100.0	2.5	▲ 0.4	0.1	▲ 4.9

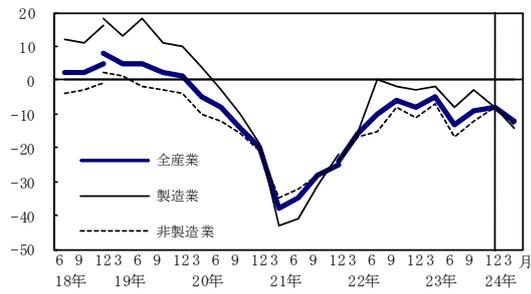
(備考) 1. 17年=100、季節調整値。九州の最新月は速報値。
2. 全国及び九州の太線は後方3か月移動平均。

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 10~12月期は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が横ばいとなっており、資金繰り判断は「楽である」と「苦しい」が同数となっている。

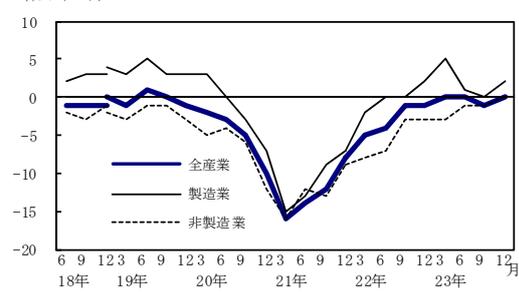
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



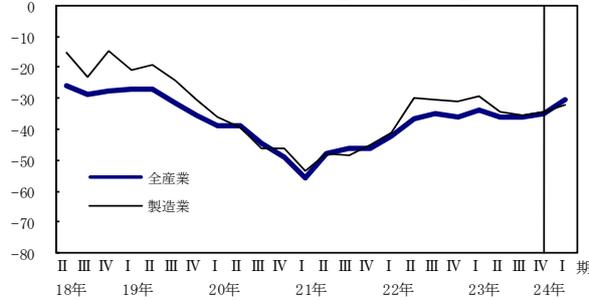
(備考) 「良い」 - 「悪い」回答者数構成比。24年3月は予測。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考) 「楽である」 - 「苦しい」回答者数構成比。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考) 「好転」 - 「悪化」回答者数構成比。24年I期は見通し。
九州(含む沖縄)地区のD I。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

「年商1億円前後の中小の建設業の受注件数は増加している。不動産開発事業者に対する地方銀行の融資姿勢が積極化している。ただし、単価の低迷及び職人の人材不足が続き、人件費は上昇基調にある。したがって利益幅は薄い(金融業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

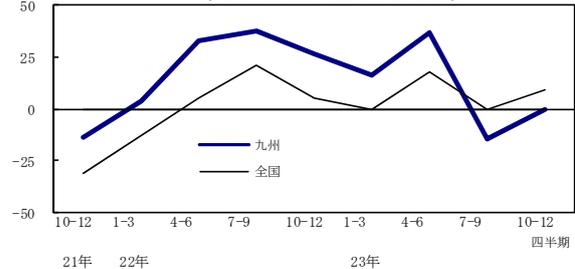
(3) 23年度の設備投資は、前年度を大幅に下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	22年度実績	23年度計画
全産業	18.8	▲12.7(0.5)
製造業	25.4	▲12.9(▲3.9)
非製造業	15.6	▲12.6(2.9)

(備考) 1. ()は前回(9月)調査比修正率。
2. リース会計対応ベース。

建築着工床面積
(非居住用、前年同期比)



2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

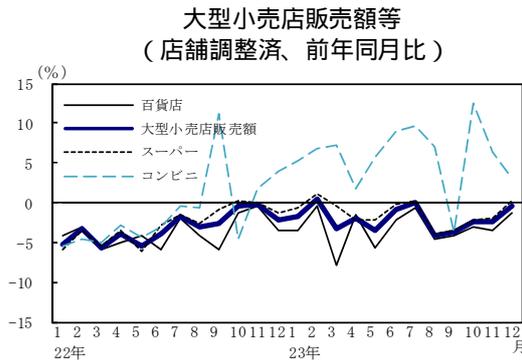
大型小売店販売額

大型小売店販売額は、前年同期比で1.6%減、前期比で0.6%減となった。

百貨店は、10月は、中旬以降は気温が高かったこともあり秋冬物衣料品は低調となったものの、身の回り品や飲食料品が好調で前年比低下幅は縮小した。11月は、冬物衣料品が低調となったが、生鮮食品や菓子などに動きがみられたことから、前年比低下幅は横ばいとなった。12月は、気温の低下から主力の衣料品が好調となったことから、前年比低下幅は縮小した。スーパーは、主力の飲食料品に加え、衣料品などにも動きがみられたことから、前年比低下幅は縮小した。

景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

「例年よりも寒い日が続き、販売量が増えない。食品の放射能汚染問題で牛肉の動きが悪い。青果物はわずかな価格の高騰があり、全体をみると販売額としては例年通りである(スーパー)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	23年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店(*1)	▲ 1.6	▲ 2.1	▲ 2.5	▲ 1.6
百貨店(*1)	▲ 4.1	▲ 3.3	▲ 2.9	▲ 2.5
スーパー(*1)	▲ 0.0	▲ 1.5	▲ 2.4	▲ 1.2
大型小売店(*2)	0.8	1.7	0.9	0.8
(季節調整値)(*3)	(0.5)	(0.9)	(▲0.1)	(▲0.6)
乗用車(*4)	▲24.9	▲37.1	▲19.4	22.3
(季節調整値)(*4)	(1.4)	(▲12.3)	(29.8)	(5.9)

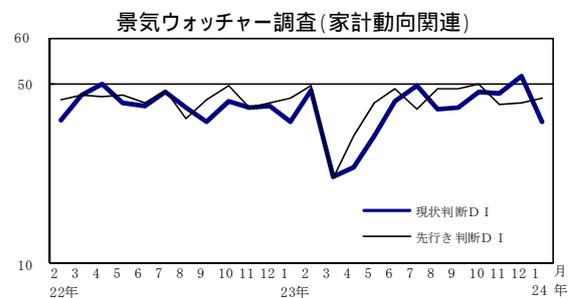
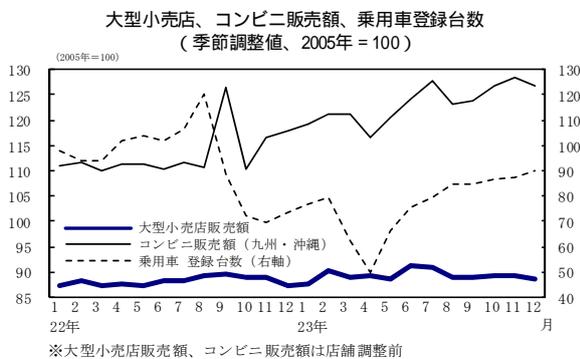
(備考) 1.九州・沖縄地区、店舗調整済、前年同期比(%)

2.九州・沖縄地区、店舗調整前、前年同期比(%)

3.九州・沖縄地区、店舗調整前、前期比(%)

4.乗用車は乗用車新規登録・届出台数。

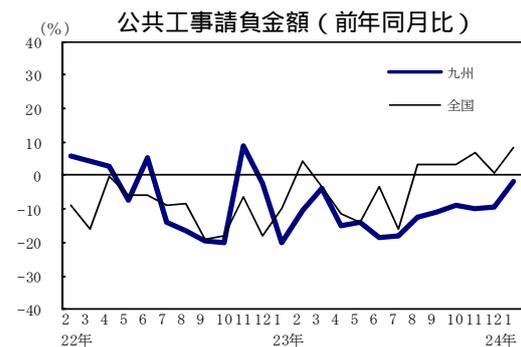
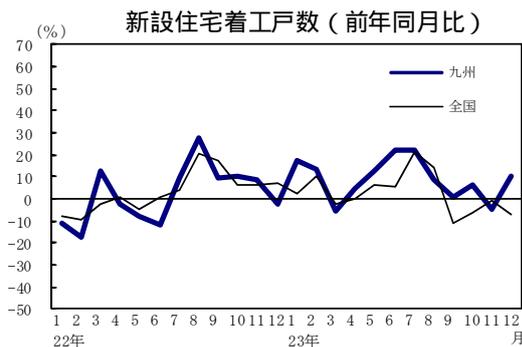
(上段：前年同期比、下段：前期比)



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

持家、貸家が前年を下回ったものの、分譲が上回ったことから、全体では大幅に増加している。

(3) 公共投資は23年度累計で見ると前年度を下回っている。

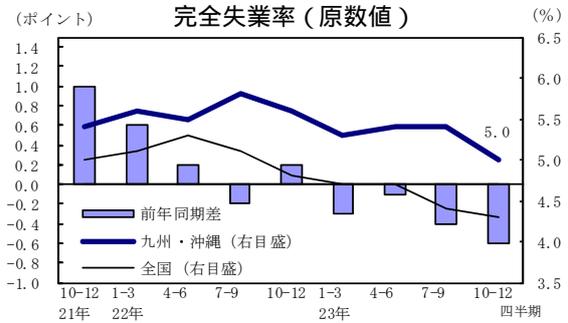
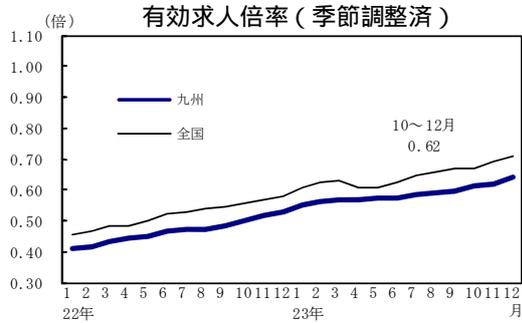


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率等

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (1月) [雇用関連 (現状)]

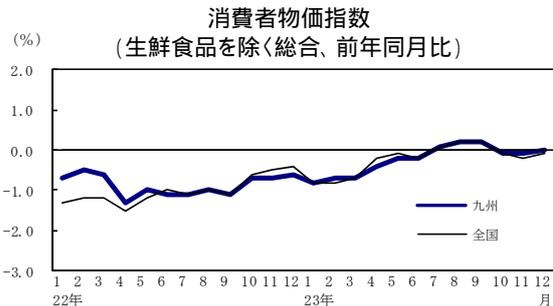
「介護等医療関連や教育、学習塾等の求人は引き続き良いが、正規雇用ではない (新聞社 [求人広告])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は増加しているものの、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は下落に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	23年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1月
倒産件数 (前年比)	186 ▲13.5	195 7.1	220 ▲0.9	209 10.6	69 13.1
負債総額 (前年比)	394 ▲7.1	888 242.3	411 ▲7.6	267 ▲44.4	104 ▲53.4



景気ウォッチャー調査 (1月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・ 求人の動きが一巡し、円高による海外シフトもあり、自動車や半導体、電機等製造業の求人広告の動きが鈍くなっている (新聞社[求人広告])。

<先行き>

・ 新型車効果が当分続く。またエコカー補助金が復活する見通しであり、新車の販売は3か月先も今月同様、好調を維持する (乗用車販売店)。

